重要：脆弱性ツール診断「スキャンに関する注意点」

1. 診断はネットワーク検査、Web アプリケーション検査の二つのフェーズに分かれて設定されます。
2. 診断開始日時以前に、Web アプリケーションの確認箇所を調べるクロール作業を実施させていただきます。クロールは通常の WEB アクセスになり、アクセス頻度としては 1 秒に 1～2 回ほどのアクセスとなります。Web アプリケーションによってはクロール作業に 1 日以上お時間を頂戴する場合がございます。
3. Web アプリケーション検査のクロールの開始地点ですが、"http(s)://ドメイン名/"で開いたページからクロールを開始します。このページからリンクや Form をたどってページを探索し、発見したページから診断を行います。トップページからリンクしていない、独立したページやアプリケーションがある場合は、「追加 URL」にご記入ください。クロール中に発見した動的ページに対して実際の検査を実施します。
4. 独自 Web アプリケーションのログイン後の検査も可能です。（一部の Web アプリケーションを除く）
   検査用の ID・パスワードをご用意いただき、「認証画面向け情報」にご記入ください。
   ネットワーク診断においては認証情報（Basic 認証、クライアント認証等）を利用せず脆弱性検査を行いますので、認証機能を除外された場合には診断結果が変わる可能性がございます。認証を通過した状態での診断結果をご入用の場合は、スキャン元 IP アドレスからのアクセスについては認証を除外していただくようお願いいたします。

   ［スキャン元 IP アドレス一覧］

50.112.117.210	54.250.120.153
50.18.47.202	54.248.225.50
54.238.58.132	54.250.121.28
54.238.58.170	54.250.126.99
54.248.232.132	219.101.136.130

5. 実際に検査対象にアクセスを行うため大量のログが出力される可能性がございます。ログからアクセス分析をされている場合はご注意ください。(別ドメインにアクセス情報を送信するタイプのアクセス分析をご利用の場合、FQDN が異なるため集計側に診断のアクセス情報は送付されません)
6. 実際のお問い合わせフォーム等において検査用リクエストを送信する場合がありますので、問い合わせメールや申込メール等が送られる場合やデータの登録/削除/編集などが発生する場合があります。（例：Form の作りや入力値の数により異なりますが、1 Form あたり数百リクエスト）
7. 検査用に送信するパラメータはランダムな英数文字、特殊な記号文字ですが、複数回リクエストを送信します。
8. お客様のアプリケーションにログイン画面で一定回数入力を間違えるとログインできなくなるようなロックアウトの仕組みのある場合、対象のアカウントがロックされる場合がございます。
9. お客様のアプリケーションで条件分岐・終了条件などに変数を利用している場合、検査用に送信したパラメータ値がアプリケーションの動きに沿って実行される可能性がございます。
10. 診断対象のサーバーのスペックが不十分、接続数の制限がある、空きメモリが不足している、など、診断時のリソース状況を懸念されるお客様はご相談ください。
11. Javascript や Flash などの動的にソースが生成される場合など、ウェブアプリケーションによっては、診断ツールがページをクロールすることができず、ウェブアプリケーション診断を実施することができない場合がございます。予め、診断が可能かを確認させて頂く場合がございます。
12. 「脆弱性ツール診断」はツールによる自動診断をご提供するサービスです。手動診断のような柔軟な対応はできないため、次表「診断できないページの例」のようなページの Web アプリケーション診断はできません。「脆弱性ツール診断」で診断できないページが多数存在する Web サイトでは、「脆弱性ツール診断」に加えて、手動による脆弱性診断をあわせてご検討ください。

【診断できないページの例】

JavaScript で遷移するページ	脆弱性ツール診断では、Form タグや A タグで記述されたフォームやリンクをたどりながらクロールしページ情報を取得しています。JavaScript によって遷移するページはクロールできないため診断できません。 たとえば、 <input type="button" onClick="処理">、<a href="...." onClick="処理"> で呼び出され location.href = "リンク先"; で遷移する、など。 同様の理由で JavaScript によりフォーム送信されるページではフォーム送信自体が行えないため診断できません。
入力チェックなどにより遷移前ページの Form に特定の値を入力する必要のあるページ(シナリオの設定が必要なページ)	フォームへの入力値を指定することはできない為、Form に特定の値を入力する必要のあるページ(シナリオの設定が必要なページ)の次ページ以降はクロールで取得できません。
前ページから引き継がれてきた動的な値をチェックして表示を行うようなページ	たとえば、URL の後ろに「TOKEN=dc123ad64b31006ecc4aad0c13d644c1」のようなリファラ情報が付いてないと遷移できないようなページはクロールできないため診断できません。
Basic 認証+フォーム（ID&Password）認証のように認証情報が 2 つ以上必要とするサイト	認証情報は 1 つしか設定できません。例えば、Form 認証と Basic 認証などを 2 つ以上重ねて使用しているサイトについては診断できません。
クロスドメイン認証（別ドメインでの認証）を使用しているサイト	フォーム認証は診断対象として設定したドメインの URL のみ設定できる為、別ドメインでの認証は設定できません。例えば、www.company.co.jp を診断対象としているにも関わらず、ログイン時に login.company.co.jp に遷移するサイトでは、ログイン後のページの診断はできません。
POST メソッドでアクセスするページ	クロール開始ページは GET メソッドリクエストで呼び出せる必要があります。
文字コードが適切に設定されていないページ	脆弱性ツール診断はデフォルトでは、UTF-8 でデコードした情報でクロールを行っております。このため、UTF-8 以外の文字コードで作られている Web ページで、文字コードが適切に指定されていない場合は、クロール時に文字化けを起こし、正常にクロールできないことがあります。
Cipher Suites を制限しているサイト	診断サーバー側では一般的によく使用される SSL 通信の設定を使用していますが、診断対象側で使用可能な Cipher suites を絞り込んでいる等の設定をしている場合に、稀に通信ができない事象が発生します。